

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

歴史を重ねた伝統を世代を超えて発展させるため、これまで受け継いできた「自主・自律・自由」の精神を、社会的責任の自覚の下で発揮するとともに、世の中の変化に対応して、既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間を育てる。

そのため、次の理念に基づいて、下記のような学校づくりを推進する。

◎ 本校における教育は、人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び、責任を自覚する人間の育成を期して行う。

1. 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる学校
2. 志を高く持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む学校
3. 生徒の希望進路の実現を図り、府民の期待に応える学校

2 中期的目標

○ 創立 100 周年記念事業で掲げた《つなぐ、ひろがる》というテーマを新たな学校づくりにも適用し、本校の魅力を一層輝かせることをめざす。そのために、①主体的に課題に取り組む姿勢を育む教育の発展。②グローバル人材の育成に向けた教育の開発。③理数教育の充実。④持続発展教育（E S D）の推進。⑤新聞の活用（N I E）、等に積極的に取り組む。また、全日制・定時制両課程間の緊密な連携のもとに、本校の円滑な運営と教育効果の向上をめざす。

○ 「春日丘みらいプロジェクト委員会(通称：春プロ)」の主導で、生徒の学力、ならびに教員の授業力向上のための組織的な取組を展開する。また、それらの諸活動を通して、経験の豊かな教員と経験の少ない教員が一体となり、既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間の育成に向けた教員自身の意識改革をめざす。

1 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる。

(1) 学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させようとする生徒を育成する。

ア 生徒が自学自習できるように、学ぶ意欲の喚起ならびに方法の習得を図り、併せて適切な校内環境を整備する。

イ 学習の実態やニーズを踏まえ、探究的な学習活動(課題研究)等を取り入れて課題を設定し解決する力や、科学的な見方、考え方、表現力等を育成するとともに、生徒の進路保障につながる教育課程の見直しと再構築に取り組む。

ウ グローバル人材の育成に向けての教育を開発・実践する。

エ 理数教育の充実を図り、全定の協働による新たな教育活動を展開する。

オ 授業・HRだけでなく、行事を始めとする学校教育のあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。

カ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図る。また、生徒会選挙の投票率(自主投票)85%以上を維持する。

キ 1年次の部活動加入率95%以上の維持を図る。オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。

※授業アンケートにおいて、生徒の興味・関心【学習意欲】、態度【学習行動】、知識・技能【学習成果】の向上の三つの観点から授業を評価し、H28年度までに各指標とも80%以上の水準をめざす。

2 志を高く持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む。

(1) グローバリゼーションへの対応・ICT化への対応を推進する。

・授業におけるICT化、国際教育及び国際交流事業の発展を図る。

(2) TOEFL等への対応力と英語コミュニケーション能力を育成する。

・授業の改善にとどまらず、留学生との交流・部活動・修学旅行を含む海外研修と国際交流等、多様な機会を設けて実践英語力の向上を図る。

(3) あらゆる場で人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。

(4) 読書習慣の育成と図書館の活用促進を図る。

・生徒図書委員会とも連携して新たな方策を立案し、全校的な読書指導・図書館活用に取り組む。

(5) 「志学」を充実させる。

・毎年、効果検証を行い(アンケート実施含む)、春日丘高校の「志学」の充実と発展を図る。

(6) N I Eについては「実践推進校」の経験と成果を活かすとともに、E S Dについては「ユネスコスクール」に加盟し、社会的公認を得て取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における学校満足度(「学校へ行くのが楽しい」)90%以上を維持する。

※保護者向け学校教育自己診断で、生徒の自主・自律を重んじる校風に対する支持率90%以上の水準維持に努める。

3 生徒の希望進路の実現を図り、府民の期待に応える。

(1) 進路指導年間計画を充実させ、一層の進路指導・情報提供に努めるとともに、キャリア教育の充実を図る。

・生徒の第一希望の進路実現を全教職員で支援し、授業時間帯以外に自習室(質問対応を含む)が利用可能な日を3年間で360日以上提供する。

(2) 国際社会と地域社会の双方に開かれた学校として、地域の関係諸機関との連携を強化し、社会資源を有効活用する。

※普通科高校として、3年間を通じて生徒に幅広く学ばせ、H28年度までにセンター試験出願時における6教科7科目の割合70%以上をめざす。

※生徒の進路選択力を育成するとともに、その進路希望の実現を図り、H28年度には3学年2月時点の進路指導に対する肯定度80%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者向けの回収方法を変えて回収率が上昇(410⇒731)。【学校生活全般】学校へ行くのが楽しいという生徒は92.2%、学校は生徒の話をよく聞いてくれると思う割合も91.3%で高率。自主自律を重んじる校風を尊重すべきと考える保護者は96.0%に達し、学校生活全般の肯定度は高い。【授業】授業が自分の学力向上に役立っていると考えた生徒は70.1%、「やや思わない」が22.6%あり今後の課題。保護者は子どもが授業の進度についていけていると思う割合が68.4%で、心配を感じている様子も窺える。【進路指導】進路に関する情報の提供を肯定的に評価した生徒は83.2%で、保護者は91.0%が適切とした。更なる改善をめざしたい。【今年の追加項目】携帯・スマートフォンの指導を保護者は92.0%が肯定。生徒の健康指導について知らない保護者が77.2%あるのは改善が必要。</p>	<p>第1回 ○平成 26 年度学校経営計画と「骨太の英語力養成事業」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材とは。たくさんの定義あるがどう考えるのか大切。 ・英語は文系の発想ではなく、文理双方に英語教育を広めていくのが普通科の魅力。 ・英語はツールである。自分の価値観を持ちそれを相手に伝えることが大切。 ・高校におけるキャリア教育とはどう考えるべきか。 <p>第2回 ○学校教育自己診断の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の方向性をふまえた質問、同じ項目で三者を比べる質問を入れるべき。 ・過去から動いていなくて経年変化を見るのも大切。 <p>第3回：学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく回収率が上がったのだから、客観性を持ったデータ処理を考えるべき。 ・学校に対する保護者の理解と協力はぜひ必要で、情報提供の方法を考えるとよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる。	<p>(1) 学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させようとする生徒を育成する</p> <p>ア 授業等の学習指導方法の更なる工夫と改善</p> <p>イ 公民意識の育成と自主自律の活動支援</p> <p>ウ グローバル人材の育成</p> <p>エ 生徒の自学自習力の育成</p> <p>オ 全定協働の教育活動の推進</p> <p>カ 教育課程の見直しと再構築</p>	<p>ア・生徒に対して授業へのレディネス(備え)を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師力の向上(授業アンケートの活用、同僚性に基づく授業研究の充実、各種研修等の活用)を図る。 ・理数教育推進のためのサイエンスツアーの実施(年間2回以上、宿泊研修を含む)。 ・サタデーセミナー(土曜講習)の充実。 <p>イ・授業、学校行事、部活動、地域や関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに生き方やあり方を探求させ、生徒の社会性を育む。生徒会・部活動・クラス等の代表者と校長が懇談する場を設け、教職員と生徒が協同する学びの場を追究する。また、昨年度の東北派遣プロジェクトの成果を継承する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が協力して規範意識を醸成する。 <p>→ あいさつの励行と遅刻指導の更なる充実</p> <p>ウ・「骨太の英語力養成事業」によるグローバル人材の育成をめざした教育を検討する。</p> <p>エ・100周年記念会館(多目的教室)等を有効に活用し、自学自習環境の整備を進める。</p> <p>オ・全定併置校の利点を活かした教育活動を推進する。</p> <p>カ・興味・関心を持つ力、自ら調べ、考える力、知識・情報をもとに課題を解決する力、そして表現・発信する力を育み、進路保障につながる教育課程を研究し、再構築に取り組む。</p>	<p>ア・授業アンケート、自己診断結果の向上(H25年度は76%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師間の授業見学を年間5回以上実施 ・2回以上のサイエンスツアー実施 ・サタゼミの年間10回開講を確保 <p>イ・学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻総数年間2200回以下を目標とする。 <p>ウ・TOEFL講座実施とiBTチャレンジ38点以上10%の達成。</p> <p>エ・記念会館を自習室として利用できる日数を年間で120日以上確保</p> <p>オ・全定協働の研究・実践・交流等を行う。</p> <p>カ・理系教育対応とグローバル対応を含む新たな教育課程の編成。</p>	<p>ア・授業が自分の学力向上に役立っていると考えられる生徒は70.1%、「やや思わない」が22.6%あり教員生徒ともに今後の課題あり。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学は随時見学で実施。(○) ・サイエンスツアーは神戸方面で実施。(◎) ・サタゼミは10回実施。外部模試も含めて効果的であった。3年生で土曜日の自習室・講習への参加に効果ありが30.1%→42.3%と増加。(◎) イ・学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画79.8%でわずかに及ばず。(○) ・遅刻総数は2300回(×) ウ・TOEFL講座を20名1講座で実施。回を追うごとに活気が出てきた。機器に慣れがなくiBTチャレンジ38点以上10%の達成はできなかったが、次回に期待できる。(○) エ・ウィステリアホールを自習室として土曜日を中心に可能な限り活用。年間で120日以上確保できた。(◎) オ・全定協働の研究・実践・交流等を昨年に引き続き行う。(○) カ・SSH・SGHの取組みを参考に、本校での理系教育、グローバル教育に向け研究を重ねてきた。(○)
2 志を高く持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む。	<p>(1) グローバリゼーション・ICT化対応の推進</p> <p>(2) 人権尊重、安全安心と心身の健康を支援する体制の充実豊かな人間性の涵養</p> <p>(3) 読書習慣の育成と図書館の活用促進</p> <p>(4) TOEFL等への対応力と英語コミュニケーション能力の育成</p> <p>(5) NIE及びESD活動の推進</p>	<p>(1)・1年次の充実した総合学習において、ICT機器を活用した学問研究・調べ学習・プレゼンテーション技能育成・異文化理解等を実施し、発展的に「志学」につなげる。</p> <p>・2年次のマレーシア修学旅行実施を通じて国際理解教育を一層充実させる。</p> <p>・タブレット型PCを活用したNIE授業等を実施するとともに、ICT化に対応している教員の授業を公開、その手法の研究、普及と課題解決を全校で模索する。</p> <p>(2)・特別支援教育コーディネーターの指名、後援会の支援による臨床心理士と府教委事業としてのスクールカウンセラーの配置を踏まえて、教育相談に係る教師力の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全担当者を明確にし、保健部、生徒部並びに三師や警察等の外部専門家が積極的に連携できる体制を推進する。 ・音楽会や美書展の他、生徒の制作、表現活動を顕彰する方法を一層工夫する。 <p>(3)・生徒図書委員会の選書活動や読書マラソン等の他、読書指導の充実全校で取り組む。</p> <p>(4)・府教育委員会事業等の活用を研究すると共に、TOEFL講座を開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修、国際交流の機会を提供し、留学生を受け入れる等、英会話のチャンスを拡大する。また、視聴覚教室のコンベンション機能等も活用して、ネット交流にも取り組む。 <p>(5)・「NIE」活動を継承、発展させるとともに、「ユネスコスクール」に加盟し、ESD教育に取り組む学校間のネットワークを利用した教育の活性化に取り組む。</p>	<p>(1)・総合学習に関するアンケートにおける満足度85%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け修学旅行アンケートで国際理解の深まり感90%以上 ・新たなNIE授業実践を含めて、該当教員による年間のべ3回以上の研究授業公開 <p>(2)・生徒向け、及び保護者向け学校教育自己診断で相談対応の満足度、生徒90%以上 保護者85%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生、学校保健、学警連携等に関わる会議を年間3回以上開催する。 ・校内環境を整備し、生徒作品等の展示を増やす。 <p>(3)・生徒向け学校教育自己診断での読書率向上(H25年度は約40%)</p> <p>(4)・海外研修、国際交流の機会を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション機能の活用を公開 <p>(5)・NIE及びESD活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な行事(ユネスコスクール世界大会)への参画 	<p>(1)・総合学習はアンケートを取れなかったが、異文化理解、留学生交流、卒業生講話等有意義な取り組みができた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行は94.6%の生徒が満足との肯定的評価をした。複数回答の「国際感覚を養う」は85.1%、「外国の若者との交流で成長」は24.1%と好評であった。(◎) ・新たなNIE授業実践を含めて、該当教員による研究授業公開や生徒の発表等があり、協会表彰の生徒も出た。(◎) (2)・学校教育自己診断で相談対応の満足度、生徒91.3%、保護者91.2%との肯定評価を得た(◎) ・安全衛生、学校保健等に関わる会議を開催して外部からの意見を学校運営に反映。(○) ・校内環境の整備に努め、校内美化について保護者78.0%、生徒74.6%が評価。下足であることを考慮して、他の環境整備も含め総合的に改善するのが課題。(○) (3)・読書マラソンの実施等に取り組んでいるが、読書率は、「ほとんど読まない」が59.5%とわずかに減少したものの、まだ課題が多い。(△) (4)・サウスウェスト高校との交流を実施。(○) ・視聴覚教室のコンベンション機能(△) (5)・NIEで生徒が協会表彰を受ける。(◎) ・ユネスコスクールとして認可される。(○)
3 生徒の希望進路の実現を図り、府民の期待に応える	<p>(1) 進路指導・情報提供、及びキャリア教育の充実</p> <p>(2)ア 地域の関係諸機関との連携強化、社会資源の有効活用</p> <p>イ より進化した高大連携の推進</p>	<p>(1)・進路部と学年が連携して、進路選択、自己決定ができるよう情報提供と相談対応を一層充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生に対する卒業生による「藤蔭講座」の継承、発展を図る。 <p>(2)ア・地元中学との連携の一環として、茨木市内の中学校と高校との交流サッカー大会を実施するほか、部活動等を通じて地域連携・交流・貢献の活動を発展させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元NPOや企業との連携をさらに深める。 <p>→ 「カス(春)ピカ」を含む茨木市内清掃活動・家庭科での車椅子実習や保育実習等に引き続き取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のロータリークラブと連携し、海外からの長期留学生を受け入れる。 <p>イ・NIEESDプロジェクト等を踏まえて、立命館大学との高大連携の推進等、市域の教育力向上に貢献する。</p>	<p>(1)・生徒向け学校教育自己診断で進路に係る情報提供・相談対応の満足度維持、向上(H25年度は85・82%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「藤蔭講座」実施後アンケートにおける満足度80%以上 <p>(2)ア・サッカー大会を含めて体育系、文化系それぞれ2つ以上の部による対中学、地域向け活動実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動(カスピカ)の継続、発展及び車椅子、保育実習の実施 ・長期留学生の受け入れを継続 <p>イ・市域15校と立命館大学との高大連携推進協議会による事業の展開</p>	<p>(1)・学校教育自診断で進路に係る情報提供83.2%(保護者91.0%)、相談対応80.1%が肯定的評価。進路だよりの発行等、きめ細かく対応できている。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤蔭講座は11講座で講話。アンケートでは、生徒の職業観と進路意識の向上が見られた。(○) (2)ア・茨木市内高校と中学校等でサッカー大会を実施。中学生の理科実験体験(おもしろ実験教室)も100名を超える参加があった。(◎) ・清掃活動(カスピカ)、NPO「ナルク」と連携した車椅子や保育実習の実施、茨木市内のクリーン大作戦等実施。(◎) ・今年度はアメリカからのロータリークラブを通じた留学生受入れ。茨木市国際交流の集いにも参加。(○) イ・立命館大学と市内高校との連携について本校で会議を開催。里山PT・異文化交流等検討。(○)